

分科会テーマ	【第2分科会】公益活動への寄附・投資等による地域経済循環	
テーマ趣旨、 進め方	課題意識や価値観に応じて、公益事業に寄附・投資することは、重要な参画・協働の手段となり得る。また、公益活動は、地域の雇用や経済活動の受け皿としても更なる広がりが期待される。これらによる地域経済循環に向けた、現状と課題、展開の可能性や必要な取組について意見交換を行った。	
出席者	喜田 憲康 (特)SODA 北内 はるか (認特)市民活動センター神戸 廣兼 勇輝 関西学院大学商学部 藤井 克弥 関西学院大学商学部 和田 純侑 関西学院大学商学部	ゲストスピーカー 前田 公美 (認特)はらっぱ 江口 聡 (認特)しみん基金・KOBÉ
ファシリテーター	実吉 威 (公財)ひょうごコミュニティ財団	
事例・話題提供	<p>【事例1】前田 公美((認特)はらっぱ) 子どもの親やその知り合いなどが出資する共同保育所として運営をスタート。事業規模の拡大に伴い、スタッフの待遇改善なども視野に認可事業へ参入。 補助金が入り事業規模が大きくなったが、認可外事業を一部残して継続している。その意図は、利用者が様々な制約を受けずいつでも子どもを預けることができる場を残したいとの思いから。 阪神・淡路大震災で施設が被災した際、多くの方からの寄付で再建できた経緯があり、地域にお返ししたいとの思いがある。事業収益が大きくなった今も寄付募集を継続し、その内訳は昔からの寄付者:新規の寄付者が9:1。</p> <p>【事例2】江口 聡((認特)しみん基金・KOBÉ) NPOを資金で応援する中間支援組織。NPOやボランティアの活動が続いていくよう支えるための助成の仕組みを民間で始めた。 助成を実施するための資金調達をイベントや他セクターとの協働による寄付システムづくりを通じて行っている。</p>	
意見の概要	<p>○質疑応答、意見交換 学生からは「各NPOはどのように資金を調達しているのか」「寄付金は企業からと個人からのどちらが多いのか」といった運営面での質問が出されたほか、NPO活動の実践者からは、「NPOに資金やパワーを集め続けるには事業の継続力が重要になる」との意見が出された。</p> <p>○参加者の期待 一般参加者の学生3名からは「自分たちの将来の進路(ソーシャルセクターへの就職や起業を含む)の参考にしたい」との期待、NPOの参加者2名からは「遺贈財産を含む資金の地域内循環をどう構築するか、そもそも公益活動は経済循環の担い手として成り立つのか」といった意見交換への期待が寄せられた。</p>	
まとめ	<p>【ファシリテーター総括】 地域の明確なニーズに基づいて活動を続けてきた団体には理念の強さ、使命感がある。それがあから寄付が集まる。そのうえで使命感のみでなく、活動の楽しさとビジネス的な視点の両方が確立されていることが活動の継続において重要となる。 公益活動に対する寄付・投資については、その経済効果のみが期待されるものではなく、活動者の思いに応え、真に地域の課題解決につながる資金であるかどうか重要である。</p>	